



a for biz Case Study

高品質な配信が視聴者的心をつかむ。 都心型配信スタジオが Cinema Line カメラ 『FX3』を選んだ理由。

株式会社 PANDASTUDIO.TV

<https://www.pandastudio.tv>

日本でテレビ放送が始まった1963年に創業した東京テレビセンターのスタジオ事業（浜町スタジオ）と、時代に先駆けインターネット配信を手がけてきた秋葉原パンダスタジオが合併するかたちで2016年に誕生した株式会社PANDASTUDIO.TV。レンタルスタジオ事業を中心とした中継・配信事業や機材レンタル、スタジオ構築支援など、映像作りの土台を支える存在として多くのプロフェッショナルから信頼を集めています。今春、その赤坂スタジオに『FX3』が導入された理由と狙いについて、同社、中村 央理雄 様にお話をうかがいました。

『FX3』の圧倒的な画質とAF性能が コンテンツをより“伝わる”ものに

まずは、赤坂スタジオがどういう特徴を持ったスタジオなのかを教えてください。

中村 赤坂スタジオはPANDASTUDIO.TVのさまざまなスタジオの中でも、特にオンラインセミナーや企業の情報発信など、オンライン配信系コンテンツの撮影に特化したスタジオです。学識者や企業役員の登場する撮影が多いため、そうした方々がくつろいで撮影に臨めるよう、ゆったりとしたリッチな内装になっているのが大きな特徴のひとつですね。今回、STUDIO 3に『FX3』を導入させていただいている。



どういった背景で『FX3』を導入することになったのかを聞かせていただけますか？

中村 実はそれまで赤坂スタジオではカムコーダーを中心に撮影を行ってきました。実際、STUDIO 1 や 2 では今でも『PXW-Z280』などが活躍しているのですが、STUDIO 3 での撮影は演者が 1 人の場合が多いため、カメラを振るような操作がほとんどなく、一段と品位の高い画質を求めるケースも多いことから、より高画質なシネマ系カメラ『FX3』の導入を決意しました。

実は当初、シネマ系のカメラをスタジオ導入することには懐疑的な面もありました。画質面で優れている反面、ピントが合わせにくいといった難しさがあるため、配信スタジオ用途には合わないと考えていたのです。ただ、あまりにお問い合わせが多いことから昨年、浜町の本社スタジオにいろいろなメーカーのシネマ系カメラを揃えて性能や使い心地を比較してみたところ『FX3』が飛び抜けて素晴らしいと感じました。それでしばらく社内制作の動画撮影に活用した後、この 4 月に満を持して赤坂スタジオ STUDIO 3 に『FX3』を 3 台導入しました。また、並行してレンタル機材としても 11 台の『FX3』を用意しています。ちなみに赤坂スタジオ以外では浜町スタジオに 1 台の『FX3』が常設されています。



具体的にはどういった点が気に入っていただけなのでしょうか？

中村 やはりなんといってもオートフォーカス (AF) の精度の高さですね。他社のカメラだとモニター上でピントを合わせたつもりになっていても実際にはきちんと合っていない、ということがおこりがちなのですが、『FX3』だと AF 任せでも本当にきれいに撮れるんです。このスタジオ規模の撮影ですとオペレーターひとりで全てをやらねばならないことが多いので、AF 精度の高さにはとても助けられています。あと、個人的には同梱 XLR ハンドルユニットにいわゆるキャノン端子 (XLR タイプコネクター) ケーブルを直接挿せるところが気に入っています。音声周りの取り回しがとてもシンプルになるので、現場の負担が大きく減らせるんですよ。



中村 央理雄 様

実際に撮影に使ったお客様の声で印象に残っているものがありますか？

中村 シリーズ累計で 35 万部を突破している『もっとすごすぎる天気の図鑑』(KADOKAWA 刊) の解説動画を STUDIO 3 で撮影しました。このシリーズでは、前作『すごすぎる天気の図鑑』の時から書籍に盛り込めなかった情報や最新研究の知見を動画で紹介するという試みを行っています。以前は別のビデオカメラで撮影していたのですが、最新の動画用に『FX3』を使ったところ、出演している著者の荒木健太郎さんから「前回や前々回と比べて YouTube 上で見たときに高品質に見えました。わりと一目瞭然レベルで素晴らしい高品質になっていると思いました」と喜んでいただけました。

参考：『もっとすごすぎる天気の図鑑』

<https://www.youtube.com/c/arakencloud>



それはうれしいですね。

中村 『もっとすごすぎる天気の図鑑』の解説動画はグリーンバックで撮影し、背景に書籍で使われている美しく高精細な雲の映像などを合成しているのですが、『FX3』で撮ることによって、そうした映像に負けないクオリティになり、上手くマッチしたのだろうと考えています。特に色のメリハリや解像感に違いを感じますよね。なにか特別なことをせず、ただカメラを変えただけで画質がここまで向上するというのはありがたいです。コンテンツの画質が向上すると伝わり方もグッと良くなりますから。

そのほか、撮影機材を『FX3』に変更したことで新しい価値が生み出せたというような話がありましたらお聞かせください。

中村 レンズを交換することで映像の味付けが変えられるのが面白いですね。基本的には『FE 24-105mm F4 G OSS』を使っているのですが、案件によってはF1.8とかのすごく明るいレンズで背景を思い切りぼかしてみたり……。まだ試行錯誤中なのですがそうした点に可能性を感じています。また、ここまでかっこいい映像が撮れるようになると4Kで撮ることに価値が生まれてきます。最近は5G通信の登場でスタジオ外でも4K生配信が現実的になってきましたから、『FX3』を持ち出して、生配信でも映画みたいに美しい映像を実現するということもあります。実際、先日撮影したeスポーツイベントの4K生配信では実験的に会場の一番引きの固定カメラに『FX3』を利用し、イベントの盛り上がりをドラマチックに伝えることができました。



レンタル事業では、
映像制作会社だけでなく
一般企業からも多くの引き合いがある

続いて、レンタル機材としての『FX3』についてもお話を聞かせてください。
こちらはどういった方にご利用いただけているのでしょうか？

中村 映像制作会社が多いのはもちろん、一般企業からの引き合いを多くいただいているです。

一般企業のお客さまはどういった用途に『FX3』を使われているのでしょうか？

中村 我々と同様、オンラインセミナーなどの映像配信に使われているのではないでしょうか。レンタルを希望するお客様は、これまでデジタル一眼カメラのαで撮っていたのだけど、ステップアップを意識して『FX3』に挑戦してみたという方が多い印象ですね。もちろん、シネマ系のカメラが話題になっているからちょっと触ってみたいという方もたくさんいらっしゃいます。一度使って、リピートするお客様も多いですね。



実際に使われたお客様の感想はいかがでしょう？

中村 ここまでお話しした画質やAFが手軽に使えるところを評価するお客様が多いですね。ボディがコンパクトなところが良いという方もいらっしゃいます。

スタジオには『FX3』×3台と
旋回型4Kカラービデオカメラ『BRC-X1000』がありますが、
どのように使い分けられていますか。

中村 配信の内容や配信に登壇される方の特徴・リクエストに合わせて、使い分けを行っています。『BRC-X1000』は、ワンオペ運用かつ演者が動くような撮影で重宝していますね。PANDASTUDIO.TVは規模・予算感に応じて、さまざまな提案ができるスタジオとなっています。



最後に今後、PANDASTUDIO.TVがαやソニーに期待することをお聞かせください。

中村 先日、事業者向けのイベントで『FX6』に5Gスマートフォンを接続して、撮った動画をその場でクラウドにアップして、別のスタッフがすぐに編集できるといったソリューションを紹介され、ものすごい未来を感じました。そういうことが『FX3』などでも当たり前でできるようになると活用がさらに広がっていきそうです。まだちょっと先の話だろうとは思うのですが、ネットワークやクラウドの活用にはPANDASTUDIO.TVとしてとても期待しています。

西村正宏社長からもコメントをいただきました。

**西村
社長** 『FX3』をスタジオに導入してまだ日が浅いのですが、すでに多くのお客様からご好評いただいている。撮った画が明らかに違う、と。そんなふうに喜んでいただけるのは、我々にとって大きなメリットだと感じています。そしてその結果、最近はこの機種指定でスタジオ予約をされるお客様が増えるという現象が起きているんですよ。これまでそんなことを言われるお客様はほとんどいなかったのでとても驚いているところです。



Cinema Line カメラ
FX3
<https://www.sony.jp/pro-cam/products/ILME-FX3/>



旋回型4Kカラービデオカメラ
BRC-X1000
<https://www.sony.jp/brc/products/BRC-X1000/>



デジタル一眼カメラα[Eマウント]用レンズ
FE 24-105mm F4 G OSS
<https://www.sony.jp/ichigan/products/SEL24105G/>



XDCAMメモリーカムコーダー
PXW-Z280
<https://www.sony.jp/xdcam/products/PXW-Z280/>

使用機材紹介

取材:2022年7月

» [法人向け] カメラの商品情報やお客様事例をご覧いただけます。 <https://www.sony.jp/camera-biz/>

» 製品やサービスに関するお問い合わせ https://www.sony.jp/biz/inquiry/form_camera.html

ソニーマーケティング株式会社

法人のお客様向け購入相談デスク ☎ 0120-24-7688 スマートフォン・携帯電話・一部のIP電話からは 050-3754-9483

受付時間 / 10:00~18:00(土・日・祝日 休み)